

試験研究の背景と目標

本県の果樹農業は、恵まれた気象条件に加え、京浜市場等大消費地に近接する有利な立地条件を活かした中で発展してきた。このような自然・社会・経済条件とともに、高い技術力を培った生産者が積極果敢に高度な新技術を経営に取り入れるなどの経営努力とが相まって、全国に誇れる果樹王国が築きあげられている。しかし、果樹農業を取り巻く環境は、国内外の産地間競争の激化に加え果実消費の減少・価格の低迷など、果樹生産を維持拡大する上で厳しい状況下にある。

県では、「やまなし農業ルネサンス大綱」を策定し、「未来につながる はつらつとした山梨農業」の実現に向けて、「未来を支える多様な担い手づくり」「戦略を重視した新たな販売ルートづくり」「次代につながる力強い産地づくり」「消費者から信頼される安全で優れたものづくり」「自然と調和した美しい里づくり」「観光と連携したふれあいの里づくり」の施策を重点的に推進している。

このような背景を踏まえ、果樹試験場では、「やまなし農業ルネサンス大綱」をさらに推進するため、「力強い果樹産地づくり」や「やまなしブランドの確立」等を目指して、次の主要研究テーマを設定し、研究者の創意と工夫、産学官での連携、さらに圃場・施設・機材などの研究資源を最大限に活用して、効果的・効率的な試験研究を実施する。

1 消費者ニーズに応える「やまなしブランド」の開発

優良品種の育成と選抜分野では、本県の立地条件に適した栽培容易な機能成分に富む良質な醸造用ブドウの品種育成を継続して進める。また、生食用ブドウ、モモ、スモモ、オウトウについては消費拡大に結びつく戦略性の高い新品種の作出とともに、優良品種を選抜する。また、遺伝子診断法を用いた品種開発の効率化や組織培養を活用した新品種の育成を進める。さらに、べト病抵抗性品種の育成を目指す。

2 高収益を目指す、品質安定・増収・低コスト生産技術の開発

高品質安定多収技術分野では、施設栽培におけるユビキタス制御による新環境制御システムの開発やブドウとスモモの適期収穫の指標となるカラーチャートの開発を進める。また、醸造用ブドウの栽培技術の確立を目指すとともに、多様な流通形態に対応するため、モモ果実の鮮度保持技術の開発にも取り組む。省力・低コスト生産技術分野では、種なしブドウの省力栽培技術の開発に向けた植調剤の利用方法の確立や、モモの着果調節作業の省力化技術の開発を進める。

3 環境にやさしく安全・安心な農産物の生産技術の開発

環境保全型技術分野では、安全・安心な果実生産と環境への負荷軽減に活用できる安定かつ効率的な栽培技術の開発を進める。病虫害防除技術については、省力で環境負荷の少ない防除技術の開発を進める。一方、土壌管理技術については化学肥料を用いないで、有機物のみを施用する資源循環型肥培管理技術を確立する。

4 生産阻害要因の解明と対策技術の開発

生産阻害対策技術分野では、黄緑色系ブドウでの発生が問題となっている「かすり症」について、発生要因の解明と発生抑制技術の確立を目指す。さらに、ブドウの害虫クビアカスカシバなど防除が困難な病害虫の生態や効率的な防除法、薬剤感受性等を明らかにする。

5 環境変動に対応した生産技術の開発

温暖化対策技術分野では、これまでに明らかになった、ブドウの着色不良の要因解析をもとに着色向上対策の確立を目指す。また、本県が経済栽培の南限となっているオウトウについては、今後、開花期の気温の上昇等による結実不良が懸念されることから、結実安定対策技術の確立を目指す。

研究目標と試験研究予定課題

果樹試験場

